

## うつ病と認知症の関係

① 認知症専門医の  
立場から

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室\*，第二大阪警察病院精神科・神経科\*\*

梅田寿美代\*，\*\*，鐘本 英輝\*，池田 学\*

## KEY WORDS

- うつ病
- 認知症
- 共通点
- 鑑別

Relationship between depression  
and dementia - From the  
standpoint of a clinical  
psychiatrist for dementia.

Sumiyo Umeda (副部長\*\*)  
Hideki Kanemoto (助教\*)  
Manabu Ikeda (教授\*)

## はじめに

高齢者のうつ病と認知症は臨床症状に共通点がみられるため、認知症を疑われて外来を受診するうつ病患者が一定数存在する。逆に、認知症に伴う抑うつ症状がうつ病と診断され、抗うつ薬による治療が長期間続けられていることもある。うつ病と認知症では治療方針やその後の経過が異なり、認知症診療の現場では両者の鑑別を慎重に行う必要がある。本稿では認知症専門医の立場から、両者の鑑別が難しい理由、認知症を疑われて受診した患者においてうつ病を鑑別するためのポイント、一度うつ病や認知症と診断した患者において診断を再検討すべき場面とその対応を検討し、認知症診療の現場におけるうつ病と認知症の関係について概説したい。

I. うつ病と認知症の  
鑑別が難しい理由

## 1. うつ病と認知症の臨床症状の類似

うつ病とは、抑うつ気分や、興味または喜びの喪失を中心とした症状が何週間にわたっても長引く状態であり、抑うつ、無為・無関心、不安、食欲低下、睡眠障害、焦燥感、倦怠感といった多くの精神症状を伴う。多くの患者が思考や集中力、決断する能力の障害を訴え、高度な認知機能を要する作業が困難になることも多い。特に高齢者では記憶障害が主訴となることも多く、認知症の初期症状と間違われることも多い。実際に、うつ病患者において軽度認知障害(mild cognitive impairment: MCI)の診断基準を満たす程度の認知機能障害を伴う割合は、近年の海外の報告によれば48~52%と約半数を占めることが報告されており<sup>1)-3)</sup>、地域ベースの高齢者1,888例を